

急性C型肝炎を発症した事例について

1998年3月 骨髓採取後の非血縁ドナーが急性C型肝炎を発症しました。

【経過】

骨髓提供の約2週間後に急性C型肝炎を発症、再入院し、治療の結果肝炎は治癒しました。その後職場復帰され、通常の生活に戻られています。原因について、詳細な調査をおこなった結果、骨髓採取のための入院中に感染した可能性が推測されました。感染の原因となった医療処置を特定することはできませんでした。

【対策】当財団では全国の採取施設に対し、同様の事例の防止策として望ましい対応について次のとおり通知しました。

使い捨て骨髓採取針使用の推奨

自己血輸血用血液の採血・保管・輸血の手続きと、注意事項や汚染血の取り扱い方法等が記載されている「自己血管管理マニュアル」の遵守

骨髓採取後、後腹膜血腫ができた事例について

2000年9月下旬 非血縁骨髓ドナーからの骨髓採取において、かなり大きな血腫ができるという健康被害が発生しました。

【経過】

骨髓採取終了後、ドナーが下腹部痛を訴え、CTスキャンなどの検査を実施し、後腹膜部位に血腫があること（腹膜と腹壁の間の部分に出血した血液の固まりがあること）が確認されました。ドナーのヘモグロビン値は一時、6.7g/dlまで低下（骨髓採取前のヘモグロビン値は12.3/dl）しました。その後、ドナーの貧血は輸血なしで回復し、無事退院されました。その後速やかに社会復帰されています。

【対策】当財団では、全国の採取施設に対し骨髓穿刺の部位と深さに十分注意するよう「緊急安全情報」を発出し、事故調査委員会にて原因調査及び再発防止策を検討して参りました。その結果、採取針により腸骨の内側にある血管を傷つけた可能性が大きいとしながらも、出血が起こった部位とそれを引き起こした原因を特定することはできませんでした。

骨髓採取後、長期に渡って腰痛が持続している事例について

2003年3月下旬 非血縁骨髓ドナーからの骨髓採取後、長期に渡って腰痛が持続しているという健康被害が発生しました。

【経過】

骨髓採取退院後、疼痛が持続したため、MRI検査を実施したところ両側腸骨不全骨折、骨髓浮腫との診断がありました。

その後、再度1週間入院し、8ヵ月後に痛みは軽減してきました。

【対策】

当財団では、原因究明と再発防止の観点から、調査を実施することとなりました。

その結果、このドナーの採取部位の痛みが長引いた理由として、次の2点が考えられました。

CTで認められる骨皮質の不整像、皮質の不連続像から考えられる不全骨折の存在
採取後の止血不良による血腫の可能性

1ヵ月以上疼痛が持続する場合、または、鎮痛剤を1週間以上継続して服薬した場合は、速やかに報告するよう「安全情報」を発出しました。

骨髓採取後、肺脂肪塞栓症が疑われた事例について

2003年8月中旬 非血縁骨髓ドナーからの骨髓採取後、酸素飽和度が低下したという健康被害が発生しました。

【経過】

採取終了後に動脈血の酸素飽和度低下を認め、肺CTスキャンなどの検査により、肺の脂肪塞栓症が疑われました。

ただちに酸素吸入、ステロイドホルモンによる治療が行われ、翌日には呼吸状態が改善しました。その後、速やかに社会復帰されています。

【対策】

当財団では、全国の採取施設に対し「緊急安全情報」を発出しました。

また、原因究明と再発防止の観点から、調査を実施したが、その結果、原因を特定することはできませんでした。当財団では、対策として骨髓採取後、酸素飽和度の低下が持続的に認めた場合には、胸部X-P写真、肺CT写真、MRI、肺シンチ、血流スキャンなどを実施するよう「安全情報」を発出しました。更に、安全性確保の観点から必要に応じて気管支肺胞洗浄についても検討するよう通知しました。

骨髓採取後、左腸腰部位に血腫を認めた事例について

2003年8月上旬 非血縁者骨髓ドナーからの骨髓採取後、左腸腰部位に血腫ができるという健康被害が発生しました。

【経過】

骨髓採取翌日、ドナーが左下腹の圧痛を訴えられ、CTスキャンなどの検査を実施したところ、左腸腰筋内に血腫およびガス像が確認されました。

止血剤並びに抗生物質の投与が開始されました。ドナーのヘモグロビン値は、一時12.8g/dlまで低下（骨髓採取前のヘモグロビン値は、16.1g/dl）しました。

左腹部の圧痛はありますが、歩行は可能で、食欲などの全身状態は良好です。

その後、問題なく社会復帰されています。

【対策】

当財団では、全国の採取施設に対し骨髓穿刺の部位と深さに十分注意するよう「緊急安全情報」を発出しました。

また、原因究明と再発防止の観点から、調査を実施したが、その結果、採取針の貫通が原因であると考えられ、穿刺針の長さや腸骨の厚みを十分配慮して、穿刺の深さを調整するよう「安全情報」を発出しました。